

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

(課名)

教育総務課	P 1
学校教育課	P 2
学校給食センター	P 4
生涯学習課	P 5
文化財課	P10
スポーツ推進課	P12

令和4年9月

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(教育総務課)

教育委員会の活性化の推進	定例会・臨時会の開催状況	定例会・臨時総会の開催	定例会・臨時会の適切な時期の開催	奄美市教育委員会の行政組織等に関する規則で定められた毎月の規定日開催に努めた。 定例会12回、臨時会1回	4
	議案の審議状況	審議件数の妥当性と委員の意見反映	委員の意見反映度	議案(報告)等の審議にあたっては適切な意見交換がなされ、教育行政へ反映された。 議案33件 報告17件	5
	教育委員の研修	研修の機会	県・地区等の研修内容	新型コロナウイルスの影響により、各種研修会が中止。	—
	教育委員の活動状況	教育委員会主催等行事への参加	学校、教委主催行事、その他行事の参加状況	学校訪問では、各委員の参加を頂き、経営に関する指導や学校側との情報共有が行われた。なお、学校や教育委員会関連行事については、新型コロナ感染症対策を講じたうえで、限定しての参加となった。	3
学校施設等長寿命化計画の推進	実施時期の検討	施設の健全度	業務委託の調査内容から適正な実施計画への反映	令和元年度3月末策定の学校施設等長寿命化計画(計画期間令和2年度～令和22年度)に基づき、令和4年度以降の実施計画を策定した。5年毎に見直しを行い、緊急性の高い施設への対応等を行う。	4
良好な教育環境整備の推進	安心・安全な学校づくりと教育施設整備状況	施設整備と修繕等	主な施設整備の工事及び修繕等実績	各学校、教員住宅等における改修工事や修繕等実施。なお、緊急性があるものは優先的に行い、教育現場の環境維持保全に努めた。時期にもよるが規模の大きな修繕等においては年度内での対応が難しい。実績:小学校208件、中学校161件、教員住宅87件	4
ふるさと創生人材育成基金事業の充実	奨学資金の貸付・返還状況	出願者数及び返還状況	新規奨学生及び返還者実績	令和3年度新規奨学生及び継続奨学生を含め46人(新規18人含む)に奨学金の貸与を行った。また、複数年に渡る滞納者に対し、催告通知を行い滞納額の減少に努めた。	3
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業	島外で頑張る学生応援事業実施状況	事業の周知及び申請状況	事業実績	コロナ感染症拡大の影響で、世帯収入やアルバイト収入の減少等により「学びの継続」が困難となっている島外の学生に、1人当たり30,000円の経済的支援を行った。 交付決定者 841人	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(学校教育課)

「確かな学力」の定着・向上	鹿児島学習定着度調査(小5年:4教科, 中1・2年:5教科)	県平均通過率を上回った教科の延べ数	県平均との差	小5は,1教科(社会のみ)で県平均を超え,国語は県平均並み,算数と理科は県平均を大きく下回った。特に理科は落ち込みが大きい。中1については,3教科で県平均を超え,特に,これまで課題であった数学が県平均を上回ることができた。ただ外国語が大きく下がった。中2も,3教科で県平均を上回り,数学も県平均との差も少なくなり,成果が見えつつある。一方,小・中ともに課題があるので,今後も授業改善と家庭学習を大きな柱とした学力向上に取り組む必要がある。	3
	標準学力検査(小1~2年2教科, 小3~6年4教科, 中1~3年5教科)	全国における指数(偏差値)	CRT 全国通過率との比較(全24項目) NRT 偏差値平均(全14項目)	CRTでは,小1~小6の対象学年の調査科目,24項目のうち,14項目が全国を上回っている。ただ,R2と比較すると落ち込みが見られる。NRTでは,中1~中3の対象学年の調査科目,14項目のうち,2項目のみ偏差値平均50を超えた。依然として中学校の学力の課題が残る。今後も,学力検査の結果から,個に応じた指導の充実につなげていく必要がある。	4
	一人一研究授業	各学校における研究授業の取組	研究授業の実施状況 目標100%	市内の教員(養護・栄養教諭を除く)の約97%が,一人一研究授業を行った。小中33校中32校は100%の実施である。今後,達成できていない学校に呼びかけを行うなど,全小中学校で100%の実施を目指していく。このことを通して,学力向上の大きな柱である授業改善につながった。	4
	指導主事派遣	年間を通した指導主事の派遣状況	派遣回数 目標80回	1年間を通しての校内研修への総派遣回数は81回(100%)であった。要望日程や諸行事との重複がないように調整し,今後も学校のニーズに応じた指導・助言ができるようしていく。	4
	あまみ授業セミナー	実施教科及び参加人数	参加人数 目標35人 (人数制限により例年の目標50人の7割)	前年度新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかったが,令和3年度は人数を制限し,小学校21人,中学校13人の参加者で実施した。小中学校各2教科(小学校:国語・算数,中学校:外国語・数学)の講師を招聘し,授業づくりや模擬授業を通した授業力向上を図った。	4
	小・中連携研修会	授業をとおした研修会を実施した学校	中学校区単位での実施率 (小中が参加しての授業を通した研修…年2回以上)	市内の全中学校区で小・中学校が参加して,学力面・生徒指導面の課題を共有し,その解決に向けた共通実践事項を策定したり,児童生徒の情報交換をしたりしている。また小・中学校で授業を通した研修を行うため,研究授業を行う際には,中学校区の学校にも参加を呼び掛け,そのことが授業観の共有につながっている。	4
	特別支援教育支援員配置事業	・配置 ・資質向上 ・連携	適正な配置 研修の実施 事務局との連携	令和3年度については,32人の特別支援教育支援員を配置し,特別な支援を要する幼児児童生徒に寄り添った適切な学習支援を行うことができた。 研修については,県立大島養護学校から外部講師を招聘するなど,内容を充実させ実施することができた。	4
	講師配置事業(「あまみっ子」すくすくプラン)	配置基準学級数に対する実際の配置	適正な配置 達成割合	小学校5,6年で1学級36人以上在籍している2小学校(奄美小6年生,伊津部小6年生)に各1人の講師を配置することができた。配置した学校の教員,保護者から好評である。児童一人一人に向き合い,学力向上や生徒指導面の充実を図ることができたが,年度途中で1人が自己都合で退職することになった。	3

不登校児童生徒への対応	あまみスクールソーシャルワーカー配置事業	長期欠席児童生徒への対応	相談・訪問後における児童生徒の通級、登校等の状況改善	学校と連携しながら、市当局及び各関係機関と連携を図り、具体的な情報共有を行うことで、児童生徒や保護者への支援を図ることができた。 特に、児童生徒のおかれている環境の改善に向けて、福祉関係や児童相談所、警察等と連携を図りながら、各家庭に働きかけ、支援に取り組む体制づくりを行うことができた。	4
	あまみスクールカウンセラー配置事業	不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒・保護者への対応	教育相談	名瀬地区の中学校区を中心に、児童生徒、保護者、教職員等を対象に年間55回(1回3時間)のカウンセリング等を実施することができた。スクールカウンセラーに学校では話づらいことを打ち明けることで、心が軽くなる様子も見られ、有益な教育相談が図られている。	4
	ふれあい教室相談員配置事業	不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒への対応	相談・訪問後、通級、登校に至った児童生徒数	学校からの依頼に応じて、15人(小学校2人、中学校13人)の通室があり、他者との交流をとおして、社会的自立に向けた支援を行うことができた。また、必要に応じて家庭訪問や電話相談に応じ、登校に課題を抱える児童生徒の支援を図ることができた。	4
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	新型コロナウイルス感染症対策用品整備事業	学校における新型コロナウイルス感染症対策用品の整備	対策用品の整備状況	新型コロナ臨時交付金を活用し、各小・中学校に配置する消毒用アルコールやペーパータオル等の消耗品や非接触型温度計、空気清浄機等の学校備品を整備し、感染予防対策を講じた。 消耗品費合計:8,623,371円 学校校具教具購入費(備品):2,876,629円	5
	特認校バス運行業務(増台)	新型コロナウイルス感染症対策として特認校バス運行において増台	増台の状況	芦花部小中学校・崎原小中学校に対し、運行している特認校バスを4月から3月まで1台ずつ増台したことにより、通学における新型コロナ感染症対策を徹底し、児童生徒の安全の確保ができた。	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(学校給食センター)

学校給食センターの管理運営	運営委員会の開催	年2回開催	給食センターの運営を適正かつ円滑に行うために委員の意見を反映	コロナ禍において、笠利地区においては2回開催することができたが、名瀬・住用地区においては、開催できなかった。	2
	給食担当者の開催	学校と給食センターの連携	学校と給食センターの連携と情報の共有	コロナ禍において笠利地区においては2回開催することができたが、名瀬・住用地区においては担当者は開催できなかった。それぞれの学校と共通認識を図りながら、連携と情報共有に努めた。	2
安心安全な給食の提供	衛生管理の徹底	衛生管理の徹底を行うための工夫	調理場における汚染区域と非汚染区域の区域分け	調理場における汚染区域と非汚染区域の区域分けや手洗い、消毒の徹底を行った。また、納入食材の細菌検査を学期に1回、調理機器の細菌検査を年1回行っている。腸内細菌検査を月2回、全職員を対象に実施し衛生管理の徹底に努めた。	5
	食物アレルギー対応の充実	保護者との面談の実施	面談を行うことにより、個々の対応を実施	食物アレルギーは、命に関わることも考えられるため、保護者との面談を実施し、確実に細心の注意を払って行うよう努めた。 (対象者) ・名瀬・住用地区 79人 ・笠利地区 16人	4
	災害に強い学校給食センター	災害が発生した時の対応	災害が発生した時の対応及び今後の対策	万が一、道路の寸断や給食センターが被害にあい、給食の提供ができないことを想定し、各学校へ非常食の備蓄を行った。	5
	地場産品の積極的な活用	県内産を含めた地場産品の活用	地場産品の活用と郷土料理による給食の提供	これまでの自校方式と同様に、地場産品の活用と郷土料理による給食の提供を実施し、食育及び食文化の継承に努めた。	4
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	学校給食費の減免	学校給食費の減免	学校給食費の減免	新型コロナウイルス対策事業として2学期以降の給食費を半額とする学校給食費の減免を行った。 (対象者) ・名瀬・住用地区 小学生 2,128人 中学生 1,117人 ・笠利地区 小学生 296人 中学生 135人	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(生涯学習課)

家庭・地域の教育 力向上	家庭教育に関する 学習機会の充実	「家庭の日」の普 及・啓発, 定着	市民清掃への参加状況	新型コロナの影響により, 市民清掃は3回(10月~12月)実施となり, 各学校から児童生徒の参加状況報告をいただいた。児童生徒の参加率は24.9%であった。 部活動や少年団も家庭の日には活動を行わず, 「家庭の日」は着実に普及してきている。	3
		子育て講座の推進	参加者数 内容の充実	参加者数 435人(14講座) 家庭教育支援員養成研修会(県事業)への参加者や読書団体など多種多様な方々の活用を図っている。	4
		幼・小・中学校での 家庭教育学級の学 習内容の充実	参加者数 内容の充実	講座合計数120回, 各校講座回数平均3.9実施 全幼・小・中学校で実施され, 「家庭学習に関する内容」「人権教育」「奄美の良さを学ぶ内容」を必須課題として実施。学習内容や実施日時等, 参加者を増やすために創意工夫し実施されていた。	4
青少年健全育成の 充実	奄美市青少年育成 市民会議	奄美市青少年育成 市民会議	参加者数 内容の充実	参加者数 委員数 40人中37人出席 それぞれの所管事項についての報告や説明があった。奄美市いじめ問題対策連絡協議会と兼ねることを確認し, 各団体同士の連携強化を図った。	4
	笠利町青少年育成 市民会議	笠利町青少年育成 市民会議	参加者数 内容の充実	参加者数 委員数 48人中 1回 37人出席 2回 新型コロナの影響により中止 内容の充実 ・青少年健全育成の推進方策及び夏冬休業期間における推進事項の確認 ・各小・中・高・派出所・保護司からの青少年育成に関する現状報告 ・令和2年度の社会教育・社会体育関係行事の説明	4
	愛の声かけ運動の 実施	愛の声かけ運動の 実施	参加者数 活動内容の充実	参加者数 147人 通常活動 計画6回 実施4回(新型コロナの影響により中止2回) 特別活動(夏祭り, 六月灯, 交通マナーアップキャンペーン)計画3回は, 新型コロナの影響により全て中止	3
子ども会活動の充 実	子ども会加入促進	子ども会加入促進	会員数	会員数 幼児 46人 小学生 556人 中学生 182人 高校生 39人 保護者(指導者含む。) 281人 計1,104人 会員数(児童生徒数)が減少傾向にある。	4

	市子ども大会及び球技大会の実施	参加者数 内容の充実	【子ども大会】 新型コロナの影響により中止 【名瀬地区子ども会対抗球技大会】 新型コロナの影響により中止	—
	笠利地区子ども会交流会	参加者数 内容の充実	【自然の家がやってきた in 笠利】 参加者数 125名 幼児 27人, 小学生 42人, 中学生 1人, 成人 45人 創作・体験活動コーナー, ふれあい体験活動コーナー等のブースを設け, 創作活動の重要性や必要性を学ぶ活動を行えた。	4
	奄美大島5市町村合同イン・リーダー研修会の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
PTA活動の充実	家庭教育における4つの運動推進	周知・実績	「家庭教育に関する4つの運動の推進」の具体例を記入した資料を作成し, 各小中学校へ配付するとともに, 管理職研修会, PTA研修会等で活用を依頼した。	4
	PTA研修会の実施	参加者数 内容の充実	参加者数 ・総会(書面決議)・研修会32人 ・ゆらおう会(中止) 県PTA広報紙コンクール(小学校の部) 最優秀賞 佐仁小学校PTA 生涯学習推進大会(収録)	4
体験活動の充実	長野県小川村青少年交流事業の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
	群馬県みなかみ町青少年交流事業の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
	「ふれあい和光塾」の実施	参加者数 内容の充実	参加者数16組58人 施設の高齢化により, ハンセン病患者とのふれあいという当初の目的達成が困難なために, 事業の継続については検討が必要である。 市主催の野菜栽培講習会の案内を行った。	3
	「奄美こども環境調査隊」の実施	参加者数 内容の充実	隊員7人(小学生5人 中学生2人) 8月に2泊3日で徳之島に行き, 徳之島町ジュニア・リーダークラブ「ていだま隊」と合同調査を行った。11月には1泊2日で奄美大島で合同調査を行った。	4

生涯学習の推進	生涯学習機会の充実	生涯学習推進大会・市P連研修会の実施	参加団体数 来場者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により「みんなで輝かせよう！あまみっ子」と題し、島口による小・中学生の夢の発表、あまみ子ども環境調査隊者による報告の収録を行った。	4
		すみようふれあいフェアの充実	参加者数 来場者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
		笠利まちおこしフェスティバルの充実	参加者数 来場者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
		地域女性団体連絡協議会活動の充実	会員数 内容の充実	会員数 860人(名瀬240 住用120 笠利500) 社会教育指導員1名を配置し、指導・育成を行なっている。	4
		名瀬地区新成人のつどいの実施	参加者数 内容の充実	成人者 男性227人 女性192人 計419人中 出席者 男性155人 女性127人 合計282人 新型コロナ感染拡大防止対策を徹底し、実行委員会を中心に、式典は適切に執り行われた。	4
		住用町成人式の実施	参加者数 内容の充実	新成人者 男性 6人 女性 5人 計11人 うち出席者 男性 4人 女性 5人 合計9人 新型コロナ感染拡大防止対策を徹底し、式典は適切に執り行われた。	4
		笠利町成人式の実施	参加者数 内容の充実	成人者 男性24人 女性27人 計51人中 出席者 男性19人 女性 25人 合計44人 新型コロナ感染拡大防止対策を徹底し、式典は適切に執り行われた。	4
	生涯学習に関する研修会の充実	ジュニア・リーダー研修会への参加促進	参加者数 内容の充実	ジュニア・リーダークラブ「TsuMuGi」会員数の増加 38人(高校生27人 中学生11人) 研修会やボランティア事業を実施	4
		指導者等研修会への参加促進	参加者数 内容の充実	参加者数 地区社会教育関係団体指導者等養成研修会 女性団体1人 PTA4人	4
	生涯学習環境の充実	公民館活動の充実 「名瀬公民館及び3分館等」	利用者数 図書貸出冊数 講座数 講座生数 自主事業の充実等	利用者数 36,447人 図書貸出冊数 17,196冊 講座数 30講座(名瀬公民館及び分館) 5講座(文化センター) 19講座(市民交流センター) 講座生数 914人(修了者609人) 自主事業 ワールド川柳、英語DEアートなど他にない事業実施が図られた。	4

		公民館活動の充実 「住用公民館」	利用者数 図書貸出数 講座数 講座生数 自主事業の充実等	利用者数 5,839人 図書貸出冊数 694冊 講座数 10講座 講座生数 124人(修了者 103人)	4
		公民館活動の充実 「笠利公民館」	利用者数 図書貸出数 講座数 講座生数 自主事業の充実等	利用者数 4,106人 図書貸出冊数 7,787冊 講座数 35講座 講座生数 765人(修了者 440人)	4
		市民交流センター の建設	計画の推進	生涯学習の拠点となる「市民交流センター」が、令和3年9月末完成。翌10月からオープン。 令和3年度(R3年10月～R4年3月) 利用者数:49,026人	4
文化の振興	文化活動の推進	奄美市少年少女合唱団	団員数 指導者数 活動充実	団員数 34人(小学校27人・中学校7人) 指導者数 4人(指導者2人・伴奏者2人) 練習日を基本毎週1回(土曜日)としたが、新型コロナの影響から実施できなかった日も多かった。 継続して参加する団員は限られているため、団員数の確保が課題。 コロナ禍における活動について指導者と協議しながら柔軟に対応している。	4
		奄美市民文化祭	出品数 舞台発表数 来場者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
		奄美市美術展覧会	出品数 来場者数 内容の充実	新型コロナの影響により中止	—
		奄美市文化協会の活動支援	会員数 活動内容の充実	団体数・会員数 90団体, 1,256人 協会加入団体は増加傾向にある。新型コロナの影響により、団体ごとの活動は縮小されたが、総会や交流会等は実施され会員間では継続して交流を図っている。	4
		小・中学生を対象とした九州・全国大会への参加費助成	参加助成実績	九州大会:1団体 全国大会:個人6名, 1団体 計:個人6名, 2団体	5

	自主文化事業の推進	観客数 内容の充実	例年は振興会館において実施していたが、新型コロナ感染防止の観点から、各小学校において、劇団四季/「こころの劇場」を動画配信の形式で実施した。 対象校:動画配信を希望した市内小学校 対象児童:5,6年生(小規模校については学年の制限なし。) 実施校数:14校 視聴者数:302人(うち先生52人)	4	
	伝統文化保存事業の推進	周知・実績	新型コロナの影響により中止	—	
	奄美市文化・地域づくり功労表彰	功労者数	令和3年度より、表彰名称を「奄美市文化功労表彰」より「奄美市文化・地域づくり功労表彰」へ名称変更。 3月に表彰式を市役所にて行った。 芸術文化功労賞:個人2人 芸術文化優秀賞:個人2人,5団体 地域貢献賞:個人5人,2団体 青少年健全育成賞:個人3人,1団体	5	
	奄美市民歌の広報活動	広報活動	令和3年3月20日に制定した「奄美市民歌」を広く普及する活動を行った。 各小・中学校に校内放送などへの活用依頼(給食時間等に放送実施) 市役所の庁内放送などへの活用依頼(退庁時の放送) 奄美市少年少女合唱団がイベント出演時の披露曲での活用(商店街歳末イベント出演)	3	
	奄美振興会館の充実	利用者数 自主事業	利用者数 182,043人 新型コロナ感染拡大防止を徹底し、適切な運営が図られた。 自主事業は、新型コロナの影響により中止。 新型コロナの影響から閉館期間があったが、コロナのワクチンセンター会場となっていたため、施設の利用者数は増加した。	3	
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業	子供たちの元気活動応援事業	事業の周知及び申請状況	事業実績	新型コロナ感染症の影響から学校行事や部活動等、活動が制限された子ども達の仲間との交流を促進するため、学校行事や各種団体の活動に対し、助成金を交付し活動支援を行った。 交付件数:109件	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(文化財課)

子どもたちの 情操育成事業	シマグチ伝承推進 活動	学校での取組推 進, 地域行事への 積極的な参加	シマグチ・シマユムイタの伝承 活動の推進を図る。	各学校における郷土学習の取組支援として, 地元から講師として27名を招聘し, 81回のシマグチ伝承推進活動に協力した。 令和3年度は赤木名中校区のうち, 喜瀬・用安・節田・和野・土浜・平集落版の音声CDを作成した。笠利地区・住用地区の音声CDは完成しているため, 今後は名瀬地区の制作に着手する予定である。	4
社会教育施設(文 化財保護施設)の 管理運営	宇宿貝塚史跡公園 の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行う とともに, 展示環境の整備・充 実を行い, 入館者増を図る。	入館者数の目標値1,500人に対して, 新型コロナによる臨時休館(131日間)もあり, 1,114人にとどまった。令和2年度に比べると入館者は増加しているため, 今後はイベント等を実施し, さらなる増加に向けた取組を検討していきたい。 また, 今後の宇宿貝塚保存活用計画の策定を進めており, 令和3年度は1回のリモート会議を実施した。令和4年度には委員の先生とともに現地視察等を行い, 保存活用計画書を発行し, 今後の改修等に向けた方針をまとめる予定である。	4
	奄美博物館の管理 運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行う とともに, 展示環境の整備・充 実を行い, 入館者増を図る。	10月21日に奄美博物館運営委員会を開催し, 新委員2人を承認し計11名の委員に委嘱した。会の中で2年度事業報告・3年度事業計画のほか博物館として展示方法の工夫や資料収集について協議を行った。 入館者数の目標値10,000人に対して, 新型コロナによる臨時休館(131日間)もあり, 7,630人にとどまった。 世界自然遺産の登録を記念して開催した「世界自然遺産展」は2,140人が来館し, アンケートの回答についても, 「満足」もしくは「まあ満足」が90%を超えた。 今後は, 古民家の修繕など境整備に努めるとともに, 講演会や講座等のイベントを積極的に開催し, 主に市民の来館者増加を目指す。	4
		入館料収入		1,200,000円の予算額に対して, 970,420円の入館料収入であった。	4
		講座・講演会等の 実施	館内での講座や講演会等 を実施するとともに, 学校や地 域・職場等に出向いた講座・ 講演を受諾し, 情報の発信を 行う。	奄美の自然・歴史・文化に関する講演会等を4回開催し, 141人の方が参加した。 また, 島内各地の学校や各種団体の出前授業を34回開催し, 1,293人の方々に啓発普及を行った。 「奄美旧暦行事カレンダー」をA4版を5,000部, A3版を1,000部印刷・刊行, 販売し, 全国各地の奄美出身者や奄美ファンの方々に, 奄美の魅力を伝えた。 古文書解読自主講座を14回(317人), 古文書サークルを14回(140人)への支援協力を行った。 今後も, 奄美の自然・歴史・文化に関する最新の研究成果を反映させた普及啓発イベントを実施する。	5

	歴史民俗資料館の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値2,000人に対してコロナ禍の休館(131日間)もあり、1,606人とどまつた。 開館から約40年経過し、老朽化が激しいため、今後の施設のあり方を検討していく必要がある。	4
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	お家で奄美デジタル博物館事業	新しい時代の新しい博物館の提案	奄美大島の大自然、歴史・文化の映像を発信し、奄美市のプロモーション活動を行う。	「お家で奄美デジタル博物館事業」における取組の一環として、令和2年度から継続して奄美大島の季節の自然(春・夏ver)を制作し、奄美博物館YouTube等で公開を図った。 今後は奄美博物館展示室内でも映像を視聴できるように、整備を進めていく。	4
文化財保護事業	文化財保護総務事業	指定文化財の保護と活用	審議会委員の意見等を反映して保護と活用を図る。	10月20日に文化財保護審議会を開催し、新委員2名を承認し計8人の委員に委嘱した。 会の中で事業報告・事業計画のほかにモダムの違法伐採及び指定文化財の新指定について協議した。 開発計画及び行為に対して協議(埋蔵文化財に係る照会と調整:10件,天然記念物に係る照会と協議:6件)を行った。 ふるさと納税活用事業を活用して、奄美群島日本復帰請願署名簿等の複製製作や指定文化財の案内板2基を設置した。 また、文化財所在地周辺の草木伐採を実施し、環境の整備を行った。	4
	小湊フワガネク遺跡保存活用事業	国指定史跡及び重要文化財の啓発普及事業	所在地域との連携・協力。啓発普及活動(学習会)の開催。	史跡小湊フワガネク遺跡の保存活用計画に基づき、文化財案内板を2基設置した。 毎年、小湊フワガネク遺跡の普及啓発を目的とした夜光貝アクセサリー製作講座を開催しているが、令和3年度は何度か計画したものの、新型コロナの影響により、開催することはできなかった。 今後は、『小湊フワガネク遺跡保存活用計画書』に基づき、恒久的な遺跡の維持管理及び保存活用を図る必要がある。	3

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(スポーツ推進課)

<p>新型コロナウイルス感染症対策と市民スポーツの推進</p>	<p>・「奄美大島コロナ警戒レベル」に応じた対応(閉鎖措置等)を執れたか。</p>	<p>・閉鎖措置等の対応の際、施設管理者等と連携を密にできたか。</p>	<p>・閉鎖措置期間中でなくても(開放中)施設ごとにきちんと対策が実施できたか。</p>	<p>警戒レベルに合わせた対応、また、閉鎖措置等の際も施設管理者と連携し、利用者への周知についてもしっかりと対応できた。 また、施設ごとの感染防止対策についてもしっかりと実施することができた。 しかし、一方では累計132日間の閉鎖期間があり、「市民スポーツの推進」については停滞したため、評価は「3」とした。</p>	<p>3</p>
<p>各種スポーツ行事の開催</p>	<p>・本市(市体育協会)主催の各種スポーツ行事について開催できたか。</p>	<p>・「中止」の場合も担当課独自の判断とせず、関係団体との協議を経て判断できたか。</p>	<p>・コロナ禍においても市民生涯スポーツの観点に立って判断できたか。</p>	<p>残念ながら、令和2年度に続き、令和3年度も本市(市体育協会)主催の各種スポーツ競技は全て「中止」となった。 「中止」判断にあたっては、各地区体育協会会長・監督会を開催し、全地区の総意として「中止」とし、最終的には市長判断を仰いで決定とすることができた。 コロナ禍での事であるが、評価は「3」とした。 なお、児童生徒による各種スポーツ大会出場(九州大会以上の上位大会)補助実績については、 全国大会・・・14件、40人 九州大会・・・8件、30人であった。</p>	<p>3</p>
<p>スポーツ合宿の発展</p>	<p>・合宿チーム数・人数(実績)</p>	<p>・合宿チームのニーズに合った環境整備・サービスができたか。</p>	<p>・補助事業を上手く活用できたか。</p>	<p>合宿チーム数・人数についてはいずれも前年度を上回り、コロナ禍以前に向け着実に復調している。 また、合宿環境の整備についても、チーム・選手の要望に対し、きめ細やかに対応できた。 補助事業においては3か年計画の1年目であり、受け入れ体制の再構築に向け、国内類似団体へのアンケートを実施するなど計画的な進捗が図られた。 概ね良好の結果を得たことから評価は「4」とした。 団体数 72団体(R2 69団体) +3 実人数 883人(R2 730人) +153 延宿泊人数 8,764人泊(R2 8,033人泊) +731</p>	<p>4</p>
<p>燃ゆる感動がごしま国体「特別国民体育大会」(相撲競技)の開催</p>	<p>・国、県相撲連盟との連携強化 ・放送委員の育成</p>	<p>・放送委員の育成</p>	<p>・開催に向けた市民の機運醸成</p>	<p>国体推進室を設置し、常に中央団体との連携及び情報の共有が図られている。 放送委員については島内及び県内の大会へ複数名を派遣し、経験を重ね報道技術の練度向上に努めることができた。 市民の機運醸成については、令和4年度事業としてしっかりと企画立案することができた。 概ね良好と判断し評価は「4」とした。</p>	<p>4</p>

